

## 学界における日本銀行の金融政策に関する多角的レビュー

神戸大学 柴本 昌彦(パネル座長)

### 〈パネル趣旨〉

日本銀行が行っている過去 25 年の金融政策に関する多角的レビューを受け、本パネルは学界での見解を整理することを目的とする。これまで、学界と中央銀行との間で様々な議論が行われてきた。学界では、政策金利の下限、インフレ目標、フォワードガイダンス、超過準備の拡大、非伝統的資産購入等に関する議論が活発に行われてきた。これらの学術的な議論を背景に、日本銀行は、ゼロ金利政策、量的緩和、包括緩和、量的質的緩和、マイナス金利政策、イールドカーブコントロール等、様々な政策運営を行ってきた。そして、それらの政策評価について、マクロ金融、金融市場、金融システムといった様々な観点から数多くの理論的・実証的な学術研究が発表されている。これらの現状に基づき、改めて過去 25 年の日銀の金融政策について学会員の間で理解を整理し共有することは、学術的にも実務的にも重要であろう。

以上の問題意識を踏まえ、本パネルでは、議論をリードしている研究者、日本銀行に在籍していた研究者、金融に関わる多様な観点から学術研究を展望している研究者のそれぞれの立場からパネリストにご登壇いただき、討議を行う。ご登壇いただくのは、中央大学教授の塩路悦朗氏、一橋大学教授の関根敏隆氏、神戸大学教授の内田浩史氏の 3 名である。

具体的な論点としては、例えば、非伝統的金融政策の効果と副作用(マクロ経済、金融市場、金融・銀行システム)、日本の低金利下における経済環境(賃金・物価形成、インフレ予想形成)、今後の実務的な課題や学術的な研究課題、といった論点が挙げられる。これらの論点も含め、ご報告やディスカッションを通じて、論題について理解を深めていきたい。

パネルの進め方は、  
・報告パート 1 時間(各パネリスト 20 分 × 3)、  
・コメントパート 30 分(各パネリスト 8 分 × 3 +  $\alpha$ )、  
・ディスカッション 30 分  
を予定している。